

生産者の皆さん！夏の収入源で悩んでいませんか？

埼玉県・所沢市の事例

私たち、地ならしできてお金も取れる、

バイカラー

トウモロコシ栽培 始めました！

トウモロコシ栽培を始めるまで…

今回お話を伺った山田茂美さん、伊東初太郎さんは例年、7月半ばまでコカブを出荷していますが、近年は価格が大きく低迷し、特に7月に入ってからの落ち込みは大きく、満足のいく数字を得られずにいました。

そこで、2006年春、7月の収入を安定させるべくまずは山田さんが一念発起、今までほとんど手がけたことがなかったトウモロコシ栽培を始めることを決断しました。ご子息も「新しい作物にチャレンジしたい」とこの一大プロジェクト参加に名乗りを上げて、家族総出でトウモロコシ栽培を行うこととなりました。2年目からはご近所の伊東様が仲間に加わり、栽培面積も40aに増えました。



7月、よくできた『まるかじり』畑をバックに、左から山田さんのご子息、伊東さん、市川さん、山田さんの4人で撮影。



『まるかじり』の品質を厳しくチェックする市川さん。山田さん、伊東さんの畑に頻繁に通っていただきました。

品種は…

2006年は、イエロー品種の『あまいんです』とバイカラー品種の『まるかじり』の2本立てでしたが、市川様からの要望もあり、2007年はボリューム感に優れ、味も品質も極めて良好な『まるかじり』に絞って販売することとなりました。

結果は…

取材で伺ったときはまだトウモロコシの出荷中でしたので売上実績はわかりませんでしたが、お二人とも大きな手ごたえを感じている様子でした。市川様のお話では、トウモロコシの売り先も安定してきているとのこと。すっかり『まるかじり』に魅せられたお二人の考えは、もう既に2008年の作付に向いています。

出荷先は…

2006年、トウモロコシ栽培を始めるにあたって山田さんがまず考えたのは、作ったトウモロコシをどのように販売するかということ。周囲のトウモロコシ栽培量は膨大ですし、既存の直売所などで販売するのは容易ではなく、別の売り口を探す必要がありました。幸い、ご自宅の近所にある浦和中央青果市場(株)所沢支社で荷を引き受けてくださることとなり、トウモロコシ担当の市川様との2人3脚が始まりました。



先端までぎっしり実の入った『まるかじり』。市川さんから太鼓判をいただきました。